

## ■コース生(第6期生)自己紹介



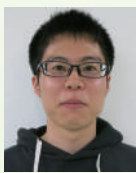
### 西尾 陽

総合理工学府  
量子プロセス理工学  
一貫制博士1年(修士1年)

一番記憶に残っているのは、昨夏に行われたインドネシアでの実地演習です。現地の学生方と様々な産業を見学し、インドネシアならではの研究課題や、発展途上国ゆえの研究資材確保の難しさなどを目の当たりにしました。そのほかにもGAでは多くの授業が開講されています。国際法や経済学など、“理系”として進んできた私たちにとってほぼ無縁のことを学ぶのはとても大変に感じますが、そんな分野の中にも数学的ロジックが隠れていたりなど、面白味を持って学んでいます。これからGA修了まであと4年ですが、素晴らしい同期たちと切磋琢磨しながら共に高めあっていきたいと思っています。

総合理工学府量子プロセス理工学専攻修士一年の西尾陽です。学士までは長崎大学に在籍していました。現所属には2017年4月に入学し、先導物質研究所の岡田研究室でリチウムイオン二次電池の研究に励んでいます。岡田先生はGA教員でもあり、研究だけでなく一貫性博士としてどう意識を持って過ごすべきかなど、日々熱のこもった指導をいただいております。

さて、私の期からGAへの入コース時期が4月となったため、間もなくGAコース生として1年が経とうとしています。その中でも



### 石橋 和也

総合理工学府  
量子プロセス理工学  
一貫制博士1年(修士1年)

この群れ形成のメカニズムがどのようになっているのかに興味があります。GAコースは、科学だけでなく環境学、社会学、経済学も学びます。これらは学部の一般教養などでも学べますが、ここでは科学と結びつけて学べるため興味深いです。大変ですが、周りの仲間と協力しあって乗り切っています。目標となるような優秀な人たちが近くにいる環境に感謝し、日々を有意義に学んで行きたいと思っています。

総合理工学府量子プロセス理工学専攻本庄・坂口研究室修士1年の石橋和也です。学部時代は福岡大学理学部で、圧電体の研究をしていました。圧電体とは、圧力を加えると電気エネルギーが生まれ、電気エネルギーを加えると変形する物質で様々なところで使われています。現在は非線形科学分野の中でも、私は特にアクティブマターに関する研究をしています。これは、自発的に動いている物体のことで自己駆動粒子とも言われ、自然界では、魚やペンギン、羊などの自己駆動体が群れを作っており、



### 上戸 あいら

総合理工学府  
物質理工学  
一貫制博士1年(修士1年)

活動は一週間に及ぶインドネシア短期実習です。実習に参加したことで、インドネシアの自然や文化、産業、工業などについて詳しく知ることができ、日本と比較しながら環境問題や経済発展についての見識を広めることができました。他にも、プラクティクススクールでは研究型のインターンシップを行いました。担当教員と受入企業とともに研究計画を立て、実際に企業の研究者から指導を受けることで、最新でかつ質が高く有意義な研究を実施することができました。

そして、グリーンアジア修了後は、化粧品メーカーへの就職を希望しています。研究部門のリーダーとして商品開発に貢献し、英語を活かして国内外でも柔軟に活躍できるような逞しい女性研究者を目指しています。

グリーンアジア第6期生、高分子材料物性学研究室所属の上戸あいらです。私の研究室では現在、材料理解や生体材料開発への応用を目指して、絹や綿などの天然高分子の粘弾特性評価を行っています。研究室唯一の学生として私は、教授と一対一で入念にかつ自由に創造的に研究に取り組んでいます。

また、グリーンアジアコース生として9か月を過ごし、既に多くの貴重な経験を得ることができました。その中で、最も印象的な

